

芸術科(書道Ⅰ)学習指導案

指導者

- 1 履修単位数 2単位
2 実施日時 令和 年 月 日() 第 時限
3 学 級 (名)
4 使用教科書 書Ⅰ(光村図書)
5 単元(題材)名 漢字の書 文字の造形を学ぶ(行書)
「風信帖」

6 単元設定の理由

(1) 生徒観

ホームルームの書道選択者は、明るく活発な性格の生徒と、もの静かで穏やかな生徒が混在している。真面目な生徒が多く、課題に対して真摯な態度で取り組むことができる。しかし、小・中学校までの毛筆の書の経験が少ないため、用筆や運筆に対して自信が持てずにいる。本学習では、生徒同士の対話を有効的に取り入れ、新たな気づきや自己の考えを深められる場面を作ることにより、幅広い表現力を身に付けてもらいたい。

(2) 教材観

本題材は、日本を代表する能書「三筆」の一人として知られる空海の書である。入唐以来、先輩である最澄からさまざまな配慮を得て、仏教者としての地位を築いた。その最澄に宛てた三通の書状の一つで、その書きぶりは骨格が強く、躍動感に富んでいる。生徒は、中学校までに真言宗の開祖として学習しており、春の遠足で四国八十八カ所霊場の太龍寺を訪れるなど、馴染みのある歴史人物である。仏法だけでなく、あらゆる学芸に通じた異才の人で、書に限っても多様な書法をことごとく自身のものにし、日本の書の礎を築いたことに触れ、関心をもたせたい。

(3) 指導観

鑑賞学習では、真跡の臨場感を味わうとともに、書状という書き手が置かれた状況や心情により、表現や構成がさまざまに変化することを理解し、部分の技法観察に終始することなく、「風信帖」全体の展開を捉える力の育成をめざす。また、臨書学習では、完成した作品の優劣だけではなく、完成に至るまで、用筆・運筆について、どのように思考を働かせたかという過程も大事であることを確認させる。ICT機器の活用と生徒同士の対話の場면을効果的に扱い、より主体的で深い学びが得られるように展開したい。

7 単元の目標

- (1) ・行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解する。
・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、各書体特有の字形や線質の特徴を理解する。
・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。
- (2) ・行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。
・行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉える。
- (3) ・幅広い表現と鑑賞の学習活動に主体的に取り組む、書に対する感性を豊かにし、書を愛好する心情を養う。

8 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識 共通事項 〔表現〕 行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 〔鑑賞〕 線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、各書体に特有の字形や線質の特徴を理解している。 技能 行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現の技能を身に付けている。	〔表現〕 行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。 〔鑑賞〕 行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	〔表現〕 主体的に漢字の書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。 〔鑑賞〕 主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

9 指導と評価の計画(全4時間)

次	学 習 活 動	評価規準・評価方法
第1次 (1時間)	空海の人物像や書道史における位置づけ、時代背景等について理解する。 風信帖が書かれた経緯や書風、文章の内容と大意を理解する。 目標を理解し、重厚感のある用筆、安定した字形などを示範動画を視聴し、臨書のポイントを考える。	[知識・技能] 活動の様子・ワークシート
第2次 (1時間)	「恵風」の起筆や転折に強く筆圧をかけ厳しく折れる感覚の運筆や安定感のある字形を繰り返し書き習得する。 2～3人1組でタブレットを使用し、互いの運筆動画撮影する。(本時)	[知識・技能][思考・判断・表現] [主体的に取り組む態度] 活動の様子・ワークシート
第3次 (1時間)	他の生徒と自身の運筆動画を視聴し、互いに違いを確認し、改善点を分析する。	[知識・技能] [主体的に取り組む態度] 活動の様子
第4次 (1時間)	名前を墨書し、作品を仕上げる。 作品を鑑賞し合い、学習の成果を確認し、交流を図る。	[知識・技能][思考・判断・表現] 活動の様子・ワークシート

10 本時の目標 「恵風」の字形や用筆について考え、他者と共有しながら表現を工夫して臨書することができる。

11 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の方法								
			<input checked="" type="checkbox"/> 観 <input checked="" type="checkbox"/> 作	活動の様子	<input type="checkbox"/> ワークシート	作品	知	技	思	態表	態鑑
導入 5分	・授業の準備をする。 ・前時の振り返りをし、本時の学習内容と目標について知る。	・用具・用材とタブレットの準備ができていないか確認する。									<input checked="" type="checkbox"/>
展開 35分	・前時に考えた臨書のポイントを踏まえて試書する。 ・2～3人のグループで互いに運筆動画を撮影する。 ・グループで臨書の注意して書いた点を共有する。 〈ICT活用〉	・タブレットを置く角度に注意し、運筆の状況がわかるように撮影するよう指示する。 ・運筆動画を共有しながらどのような点に注意して書いたかや他者の良いところについて意見交換することを伝える。		<input checked="" type="checkbox"/>							
	・共有した臨書の注意点を記入する。	・ワークシートに共有した注意点を記入させる。				<input type="checkbox"/>					
まとめ 5分	・本時の学習内容を振り返る。	・次時への意識付けをさせる。									<input checked="" type="checkbox"/>

12 評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	・臨書のポイントを踏まえて試書し、グループで運筆動画を視聴し、注意点や互いの良いところを対話的に共有できている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導・手立て	・指導者による助言や他の生徒との協同作業により、運筆動画を視聴し、自身の筆や手指の動きの様子を確認させる。